

～「これまで」と



くどうてつや
工藤哲弥さん (浜田)

●八峰町老人クラブ 会長

地域のつながりを強く

八峰町老人クラブは誕生して今年で満10年を迎えます。現在会員は1,142名、一番多い時で1,400名ほどが在籍していました。この老人クラブで2期4年にわたり会長を務めているのが工藤さんです。「八森と峰浜が合併する時、それぞれの地区の単位老人クラブ(各地区ごとの老人クラブ)の活動を尊重しよう」となりました。それは現在も引

き継がれており、互いの活動に参加して交流を深めています。」と語ってくれました。しかし、会員は減少傾向にあり、理由は、脱会したり亡くなったたり、また、70歳でも現役で仕事をしていることで加入しなかったりと様々です。老人クラブに加入すると行事に必ず参加しなければならず、拘束されると思っている方もいますが、そ

んなことはありません。ぜひ加入してほしいです。」と工藤さんは話してくれました。「一人暮らし高齢者の手助けをはじめとした友愛活動や、地域に昔から伝わる伝統を語り継ぐなど、活動を充実したいです。地域のつながりをより強くしていくためにも、会員を増やせるよう取り組みたいです。」と今後の展望を語ってくれました。



かみがきひろし
神垣睦廣さん (八森2)

●白瀑神社 宮司

祭りを守り続けたい

毎年8月1日に行われている「みこしの滝浴び」は、白装束をまとった男衆がみこしを担いだまま滝つぼに入る珍しい祭りです。この祭りが行われる白瀑神社で宮司を務めているのが神垣さん。「昔は滝の間集落までが白瀑氏子の区域で、朝5時にみこし担ぎが滝の間集落をスタート。集落ごとに担ぎ手が替わることもあったと聞きま

す。また、神社の周りには移動サーカスやお化け屋敷が来て、住民の楽しみ場となっていました。」と現在の祭りとの違いを語ってくれました。10年前は若い人が少なく、担ぎ手は減少していたものの、地元出身の大学生が戻ってきているなど、それなりに確保できていました。しかし、4、5年前から役場職員に担ぎ手をお願いするなど、祭りの存続が難しい状況が続いています。

これからについては、「10年先を考えると今より過疎化が進み、若い人は減っているはず。それでもこの行事はできるだけ守り続け、絶やしたくないと思っています。全国から担ぎ手を集めるなど、色々な協力を得ながら取り組んでいきたいと思えます。」と祭りの存続に意欲を見せてくれました。



さかいたまさとし
榮田全穂さん (畑谷)

●トマト農家

成功事例が増えれば

峰浜地区でJAの部会に加入しているトマト農家は少なく、5人ほどです。その中の一人である榮田さんは、6棟のハウス、約900坪という広大な面積でトマトを栽培しています。「トマトは毎年出来方が違うので、水の与え方などを調整して同じ品質のトマトを作れるよう取り組んでいます。」と榮田さん。

作ったトマトは農協を通して首都圏に出荷しています。売れるトマトには「見た目、品質、味」の3つの要素が必要で、榮田さんは100%自信がないと出荷しません。「最近では東京八王子に本店があるスーパーに認められ、扱っていただいています。高級ではなくいいものをコンスタントに」という要望に応えたいと考えています。」と榮田さんは話します。

農家を取り巻く環境は厳しいですが、少しずつ成果が出始めています。今後について伺うと、「トマト作りには自信が持てるまで20年かかりました。最近では肥料などが良くなり、作りやすくなっているし、やる気がある人には教えたいと思っています。自分も含め成功事例が増えることを、新規就農者も増えてくれるのではないかと思います。」と語ってくれました。

「これから」～



やまもとたかし
山本太志さん (茂浦)

●旬但馬漁業 玄辰但馬丸 船長

抜群の鮮度を届けたい

有限会社但馬漁業で玄辰但馬丸を操る船長の山本さんは、小中学校の講師を経験し、漁師になった経歴を持ちます。漁師である父親の船に乗り5年の下積みを経て、6年前に船長となりました。山本さんは、「4人の乗組員が在籍する船の船長になることで責任は重くなりました。魚が獲れるかどうかは漁をするポイントによりますので、そ

の判断が大事。」と語ってくれました。「以前、東京築地の市場に行った時、秋田の魚が一箱もありませんでした。ここで、秋田の魚は全国の人に知られていないということに気づきました。」と山本さん。知られていないなら、こちらから情報発信して知ってもらうことが大事。この思いから、さまざまなメディアやイベントを通じて八峰町の海産物などをアピールし

ています。情報発信はブログなどで行っており、妻の瞳さんが主に担当しています。今後に向けて、「魚が最もおいしいのは獲れたて。消費者に抜群の鮮度でいいものを届けることができれば、リピーターになり、人が人を呼ぶ状態になります。八峰町全体に広がれば活気が出るはず。」と話してくれました。



かさはらさちこ
笠原幸子さん (水沢)

●八峰町観光協会 前会長

「人」そのものが観光地に

八峰町観光協会は、平成19年に観光協会はちもりと峰浜観光協会が合併して誕生しました。現在はポンポコ山公園パークセンターに事務局を置き、秋のイベントとして定着した「んめものまつり」をはじめとした各種イベントで八峰町の活性化を図っています。その初代会長となったのが、現在も峰浜産直会会長を務める笠原さん

です。「観光協会が合併する時は、峰浜も八森も観光面で低迷していましたが、会長となつてからは「食」で観光客に来てほしいという思いで事業に取り組みしました。その中で、町外の方から町のおいしいものをもっと売り出したいのでは、と提案されたことがきっかけで「んめものまつり」がスタートしました。」と当時を振り返つ

てくれました。今後については、「今年の5月から毎月市場を開催するなど新しい取り組みも展開していく予定です。しかし、観光客を呼び込み盛り上げるには観光資源を活かすため、地域で生活する「人」そのものが観光地になることが大事。心に残るおもてなしをして、観光客の増加につながれば」と語ってくれました。



たむらともこ
田村朋子さん (カッチキ台)

●育児サークルポプリの会 代表

安心して子育てができる環境を

ポプリの会は、平成12年に旧峰浜村で結成された育児サークルです。子ども園入園前の子どもと保護者の交流を目的に、月に2回程度、4組の親子が参加しています。現在、ポプリの会代表を務めているのは3人のお子さんを育てる田村さん。「会費は必要な時に集める程度で基本は無料。参加できる時に来て、子どもを遊ばせたり、ベビーマッサージ

や絵本の読み聞かせをしたりしています。昨年は天気がいい日にポンポコ山公園に行ったほか、八峰消防署の好意で消防署の見学や、いざという時の勉強もさせていただきました。この時は町の保健師さんが呼びかけてくださり、八森地区の方にも参加していただきました。」とこれまでの活動の様子を語りました。これからの活動について聞いてみ

ると、「自分自身も知らない土地へ嫁ぎ、分からないことがたくさんある不安の中でポプリの会に参加し、安心できたという経験があります。これも歴代ポプリの会の会員によるがんばりと、保健師さんの協力のおかげです。今後は八森地区の方とも連携し、安心して子育てができるようポプリの会を続けていきたいです。」と思いを語ってくれました。